



発行者：愛媛県東温市横河原366 国立病院機構愛媛病院 発行責任者：院長 岩田猛 <http://www.ehime-nh.go.jp>



### どてかぼちゃカーニバル

昭和60年（1985年）どてかぼちゃを通じて交流を図り、全国の農業者及び地域住民の友情と親睦を深めようと全国で初めて開催したカーニバル。その後全国に広がり、現在では各地で同じようなイベントが開かれている。

## も < じ Contents

緊密さアップ	2
第2回 地域医療連携交流会	
透き通るハーモニー	2
サマーフェスティバル	
知を求め識を深める	3
第5回 臨床研究部講演会	
職員一丸の成果	3
理事長表彰受賞	
暑〜い熱〜い闘い	3
賀茂精神医療センターと交流野球試合	
健康フォーラム2011	4
今年はショッピングモールで開催	
begin new teams	4
糖尿病チーム・呼吸器サポートチーム	

看侃学譚	5
松山で中国四国看護研究会開催	
医療の輪	5
東温市地域包括支援センター	
医療安全管理室だより 24	6
can you do it ?	
四季燦餐	6
新米の巻	
看護学校の頁	7
オープンスクール	
夏季研修	
ちよつと言い放し	7
外来診療担当医表	8

※弊誌の基本方針として、掲載写真については原則ご本人様の了解を頂いております。

# 緊密さアップ

## 第2回 地域医療連携交流会

地域医療連携交流会は東温市を中心とする関連医療機関および介護施設等との講演会、意見交換会を通し広く連携を強化し、診療面の運営を充実させることを目的に昨年8月に発会いたしました。

第1回地域医療連携交流会は、昨年11月に東温市中央公民館を会場として多数の参加者のもと開催することができました。

今回は事情により中央公民館が使用できないことから、東温市内での開催および参加人数を考えると「利楽」（見奈良天然温泉）が開催場所となりました。



当日の開会は18時30分からでしたが、温泉に入られるなど早くから会場入りされた方もありました。

交流会の開会后、まず、岩田院長の挨拶に始まり、阿部副院長の職員紹介と続き講演会が始まりました。

講演会では、市の行政および救急隊からみた連携を中心として、東温市健康推進課白戸課長様より「保健福祉行政の取り組みと課題」、東温市消防本部渡部救急係長様より「平成22年における東温市消防の救急統計」など医療連携に関わる講演をいただきました。また、当院の久保統括診療部長より「当院における地域医療連携の現状について」と題して講演しました。

講演後は出席者による和気藹々とした意見交換会に臨みました。

交流会の問題点などは今後も内容を検討するなかで改善を図り、第3回に繋げていきたいと思っております。

当日、講演あるいはご参加いただきました方々には、この場を借りお礼申し上げます。今後とも愛媛病院との医療連携をよろしくお願いいたします。

経営企画室長 斉藤秀紀



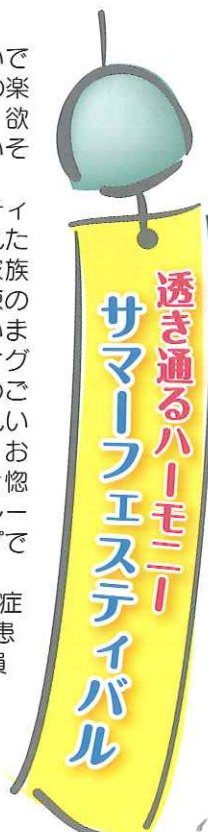
今年も恒例のサマーフェスティバルが、数日前の雨を気にすることもなく好天に恵まれ7月8日(金)に開催されました。むしろ「好天」というよりも「炎天下で」といった表現が相応しいでしょうか。

22、23病棟西側テラスに張られたテントではそうめんコーナーがオープンと同時に多くの来場者を迎え賑わいました。家族や職員と一緒に食べる患者さんの楽しそうな顔。横では、汗をかきながら調理する職員ですが、いつもより楽しそうな顔を

をしているように見えたのは気のせいではないでしょう…。「なんでも屋」コーナーは患者さんの楽しみにしている玩具などの交換コーナーです。欲しいものが交換できると歓声を上げて病棟へいそいそ帰る患者さん。後ろ姿もうれしそうです。

夕方からはいよいよ東側テラスで、フェスティバルの始まりです。きれいな七夕飾りが飾られたステージの周囲に看護学生のボランティアや家族に連れられて患者さんが集合しました。他病棟の患者さんを始め、病院近隣の方まで集まっています。今年は「Hi-Fu」という双子姉妹のデュオグループを招いてのコンサートです。患者さんのご家族のご厚意による音響効果も素晴らしくきれいなハーモニーが夕暮れのテラスに響きました。おなじみの曲からオリジナルの曲にみんな聞き惚れてしまいました。Hi-Fuは愛媛県出身のグループで現在は福山を中心に活動しているグループです。楽しい、夏のひとときでした。

このサマーフェスティバルー七夕会ーは重症心身障害児病棟だけでなく、いろんな病棟の患者さんにも楽しんでいただいて、愛媛病院職員上げての行事です。テントの運搬から設置や片付けまでチーム愛媛で取り組み、楽しいひとときが無事終わりました。暑い夏を知らせるイベントでした。



# 第5回 臨床研究部講演会

平成23年6月24日(金)の18時から20時まで、カンファレンス室にて恒例の臨床研究部講演会を開催いたしました。早いもので本年で5回目となりました。本年は正規の臨床研究部になったこともあって、呉医療センター臨床研究部部長の谷山清己先生にお越しいただきました。また、循環器分野からこの4月に愛媛大学心臓血管呼吸器・再生外科学の教授に就任されました泉谷裕則先生にもお越しいただきました。

谷山先生には呉医療センター臨床研究部の状況について、研究室構成・メンバー・各研究室の活動状況について説明していただき、機構本部が考えている研究事業の方向についても説明していただきました。さらにご自身が現在までに行ってきた国立病院機構の研究事業（EBM研究、ネットワーク共同研究、など）のお話をされました。乳がんの細胞診での問題点、胃潰瘍治療の大規模比較研究などです。最後に4年前にご自身で立ち上げられた東南アジア諸国（タイ、ベトナム、マレーシア、シンガポールなど）の有名病院との交流（医療従事者の交換留学、呉国際学会の開催など）の話を伺いました。臨床研究部の模範的な活動に思われました。

泉谷先生は「弁膜症手術適応と低侵襲手術ー心エコー検査の重要性ー」と題されて、弁膜症の現状と診断法・



治療法の進歩をお話しされました。心エコー検査の進歩により弁膜症の重症度診断・手術適応判断が容易に行われるようになったこと、最新のガイドラインによると重度の大動脈弁狭窄症や僧帽弁閉鎖不全では無症状期でも手術適応が考慮されるようになってきたこと、また、このような無症状期患者や高齢患者に対しては創が小さく体に負担の少ない低侵襲手術が望まれることを解説していただきました。

臨床研究部講演会は専門的な話が多く、関係する職員以外にはわかり難いかもしれませんが、職員全体が最新の情報を見聞することが研究・診療レベルを高める一助となると考えます。今後も続けていきたいと考えていますので、参加宜しく願っています。

今回も開催を手伝っていただきました関係者の方々に深謝いたします。

臨床研究部長 松田俊二

## 職員一丸の成果 理事長表彰受賞

本年3月11日に発生した東日本大震災において、医療班、D-MAT、被爆スクリーニングなどの医療支援業務、入院患者の患者搬送や物資の輸送支援業務など多くの国立病院機構職員が震災に係わる業務に携わったことは、国立病院機構表彰規程の表彰基準「災害に際しその危険を克服して職務を遂行した職員等」に相当することから、国立病院機構の133病院と6ブロック事務所に対して理事長表彰が行われることとなり、当院も表彰されることとなりました。

表彰式は、平成23年7月29日に当院のカンファレンス室で行われ、病院幹部のほか4月3日から4月7日まで愛媛病院医療班として現地で医療活動に従事した阿部副院長、郷原専門職、成岡治験主任、藤岡副看護師長、若林副看護師長らが出席しました。表彰状授与の後、佐藤統括部長から労いのお言葉を頂き、医療班として派遣された5名は被災地での活動を改めて思い出していました。

ところで、医療班として派遣された職員は、物流もままならない中、朝早くから東松島市へ入って医療活動を行い、夕方には、仙台医療センターの研修棟に設置された現地対策本部での報告を行い、その後当日に使用した薬剤の整理にあたる等連日夜遅くまで活動を続けました。

一方、派遣された職員の部署では、その不在の期間他の職員がフォローし愛媛病院の診療に支障を来すことはありませんでした。これは関係職員が一致団結した結果です。こうしたことを踏まえ今回の表彰は、医療班として派遣された職員個人ではなく、愛媛病院が表彰されました。

最後となりましたが、本年3月11日に発生した東日本大震災により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地域の一日も早い復興をお祈りいたします。



## 暑い闘い

### 賀茂精神医療センターと交流野球

「みんないい顔してる！」6月25日、梅雨の真っ最中、連日の雨でどうなるかと心配されましたが、どんだけ晴れ男がいるのかその日は快晴。昨年に引き続き賀茂精神医療センター（広島）との交流野球が伊予市おさい公園野球場で開催されました。愛媛病院代表として、野球大好きおやし達16名が集まり熱戦を繰り広げました。

プレイボールの掛け声で始まった第1試合目、初回から思わぬ展開に…緊張からくる堅さ、練習不足でのエラーの連続で、いきなり7点のビハインド。監督から激が飛び、円陣を組み気合を入れなおし怒涛の反撃開始。相手も食い下がりましたが乱打戦を制し、勝利することができました。2試合目は両チーム投手のふんばりで1点を争う緊迫したしまった好ゲームとなり、愛媛病院2点リードで迎えた最終回、同点に追いつかれ2アウト満塁、カウント3ボール2ストライク（ドラマのような展開!!!）。逆転サヨナラの大ピンチ。しか〜し、ピッチャーの投げた渾身のボールにバットが空を切り三振、同点でゲームセットとなりました。対戦成績は去年も合わせると3勝1分と負け無し。おやし達、がんばってます！

今年も、拍手喝采の好プレーあり、腹を抱え笑いたくなる珍プレーあり、たいへん盛り上がりました。両チームとも熱中症で倒れる者もなく、怪我人を出すこともなくあつという間に楽しい時間が過ぎていきました。帰る時には、ユニホームは真っ黒、顔は真っ赤に日焼けして大変な事になっていました。

賀茂精神医療センターの選手、愛媛病院の選手、応援してくださった方々ありがとうございました。来年も楽しい野球ができたらいいなと思っています。是非、皆さんの参加をお待ちしています。おやし達とさわやかな汗を流しましょう。



# 健康フォーラム 2011

## 今年はショッピングモールで開催

東温市医師会、愛媛病院、東温市の共催で「第6回東温市健康フォーラム2011」が平成23年9月4日(日)に開催されました。例年は東温市中央公民館で開催されていましたが、今年は公民館の改修工事の関係でフジグラン重信グランモール1階に開催場所をかえ、例年とは違った企画で行われました。

内容としては、簡易血糖測定、BMI測定(身長・体重測定)、パネル(ポスター)展示および質問者に対する健康相談、オルゾ試飲(もち麦を自家焙煎して作ったノンカフェイン飲料)、消防救急隊による救急処置講習や展示を行いました。パネル(ポスター)展示では糖尿病、メタボリックシンドロームに関する診断基準や合併症、食事療法、運動療法、日常生活



準備中のスタッフ



ばあちゃん  
痛い？

活の注意点などのコーナー、喫煙の害や怖さを視覚から訴えた展示物やポスターのコーナー、栄養に関するコーナー、東温市のウォーキングコース案内のコーナーがあり、多くの買い物客に関心を持って見ていただきました。血糖値測定等の測定コーナーには200名あまりの方が来場され、糖尿病に関心を持っていただくとともに、質問がある方にはポスターを見ながら、医師や看護師が丁寧に説明を行いました。

今年は都合により東温市歯科医師会は参加できませんでしたが、開催に向けての準備や当日の各担当の東温市医師会、消防救急隊、東温市、そして愛媛病院のスタッフのみなさま、および大活躍のチビッコボランティアさん、ご協力ありがとうございました。

今後も地域に開かれた国立病院機構病院として、東温市および周辺地域、東温市医師会、周辺医療機関と連携し、愛媛病院の役割を果たしていきたいと思えます。

副看護部長 高須賀久美子

市長さんや…  
緊張する～



会場の様子



血糖値測定を受ける  
高須賀東温市長

## begin new teams

糖尿病チーム  
呼吸器サポートチーム

チーム医療とは、一人ひとりの患者さんに対し、関係する専門職が集まり、チームとしてケアに当たることです。従来患者さんへの医療ケアの内容は主治医が決定し、看護師、薬剤師、栄養士などの各専門職に指示するシステムが主流でしたが、最近では患者さんの状態に応じて複数の診療科や職種で構成されるチームで医療サービスを提供していくのが一般的になってきています。診断技術や治療の多様化・複雑化に伴って専門分化が進み、主治医1人だけでは様々な情報を総合して判断することが困難になってきており、質の高い安全な医療へのニーズに応えるには、情報と意見を多職種で交換しながら意思決定を行っていくことが不可欠だからです。

当院では現在、院内感染対策チームや栄養サポートチームなどが多職種で活動を行っていますが、今年度新たに「糖尿病チーム」と「呼吸器サポートチーム」の2つの医療チームが立ち上がり、活動を開始したので紹介します。現在糖尿病の患者は全国的に増加しています。「糖尿病チーム」は、この4月から当院に赴任した山内一彦医師(糖尿病専門医)を中心に当院の糖尿病診療のレベルアップ、各職種間(糖尿病専門医、消化器科医師、循環器科医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、医事職員など)

の連携の強化、地域も含めた啓蒙活動や医療連携を推進することによる糖尿病診療の発展を目的とし、スタッフで勉強もしながら活動を始めました。糖尿病で当院に通院されている患者さんや入院患者さんの病態、合併症、心理面での不安などを多職種で連携・評価して、適切なカウンセリングや栄養・運動・薬物療法を選択・実施することにより、血糖コントロールはもとより、合併症の予防・早期発見、治療効果の向上、QOLの向上を目指します。

「呼吸器サポートチーム(RST)」も、現在RST準備クラブとの仮名称ですが、この5月からスタートしました。このチームは渡邊彰医師(呼吸器専門医)を中心に、神経内科医師、呼吸器外科医師、麻酔科医師、臨床工学士、理学療法士、看護師、栄養士、薬剤師、医療安全管理担当者からなり、人工呼吸療法中の患者さんについて、安全管理、合併症予防、人工呼吸からの早期離脱やリハビリテーションに関する評価や提案を行うことを目的にしています。

このようなチーム医療の取り組みが、今後更に患者さんやそのご家族が満足してもらえる医療の提供に繋がるように病院全体としてもバックアップしていきたいと考えています。

副院長 阿部聖裕



# 看 侃 学 誇

松山で

## 中国四国看護研究学会開催



第7回中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会が、去る9月10日(土)に中国四国ブロック担当理事の上池先生はじめ来賓の先生方にご臨席いただき愛媛県県民文化会館(ひめぎんホール)で開催されました。会員数3,611名、参加数は学生242名を含む1,130名でした。

悩みや迷いが生じたとき、時には自分の「看護の始まり」にもどり、「自分は何を目指しているのか」を問い直し、「自分の行く道を見えるものにする」、そして看護実践者としての自信と誇りを高め、多様化するニーズに対応できる看護師に成長してほしいという思いから、メインテーマを「原点回帰—看護の価値を見つけよう—」に決定しました。

ところで、「原点回帰」に当たり、本学会のルーツについて触れてみたいと思います。そもそも本学会の前身である四国学会は、現東徳島医療センターの喜多名誉院長が、「看護師が看護研究を気後れすることなく発表できる身近な学会をつくる」ことを目指したのが始まりです。



第1回は平成2年に香川小児病院の研修棟で行いま

した。その後独立行政法人化への移行を機にリニューアルし本学会が誕生しました。岡山・広島・四国の各地区が輪番制で担当し、毎年9月の第2土曜日に開催しています。担当となった地区の施設が、これまた輪番制で運営委員長を仰せつかるということでしょうか。かくして愛媛病院は今年度大当たりということでしょうか。

さて、今回の発表は、口演22題、示説44題でした。看護の専門家として、常に探求し、エビデンスを求め、対象の安寧を願う思いが研究を通して感じられました。特別講演は、「ナイチンゲールにまなぶ経営学」と題し、テルモ㈱取締役副社長松村啓史先生にご講演いただき、元気になる看護のヒントや、震災を体験して日本人が取り戻したものなど、笑いあり涙ありのあつという間の90分でした。

また、緊急企画として「東日本大震災医療支援レポート」として、DMAT、心のケア、被災病院への看護支援そして医療班の活動の発表4題と、ポスター掲示が16題ありました。3月11日、津波のすさまじい破壊力で原型をとどめていない程多くを失った東北の地での災害支援、励ます言葉さえ失いかけた医療者に「遠くからありがとう」の感謝の言葉をいただいた、そのような報告でした。貴重な体験から学び、今後災害医療とどう向き合うか大きな課題です。

1年間、準備にご尽力いただいた香川・愛媛の皆様、終日熱心に聞いてくださった会員の皆様に感謝いたします。

## 医療の輪



## 東温市地域包括支援センター

### 繋がる地域医療連携

こんにちは。地域包括支援センターです。

地域包括支援センターでは、主任ケアマネージャー、社会福祉士、保健師などが中心となって高齢者の皆さんやその家族の介護に関する相談や、悩み以外にも、健康や、情報提供、福祉、医療や生活面に関することなど、さまざまな相談を受け関係機関に繋ぐ役割をしております。また、各病院の地域連携室とも連携をとりながら、退院後の在宅生活が速やかに移行できるように様々な機関とのネットワークづくりに力を入れています。

地域の皆さんがいつまでも健やかに住み慣れた地域で生活できますように取り組んでおりますが、皆さんのお声を十分に反映できていないのが現状です。悩み事や相談がありましたらお電話でも、またこちらから訪問もいたしますので、どなたでもどんな事でも、お気軽にご相談ください。

東温市地域包括支援センター

住所：東温市田窪300番地2 電話：089-955-0150



支援センターの皆さん

# 医療安全管理 だより

②4 こんなことしています

## can you do it ?

当院は2005年にAED第1号が設置され現在では6台設置されています。AEDの使用は年間2回程度で使用する殆どは病棟です。今回病院職員として心肺停止の患者さんを発見時に、救命のためにAEDを適切に使用できるようにとの目的で「AEDの実際について」のテーマで研修会を2回開催しました。

講師は山内診療部長・麻酔科医長で、研修内容は、①AEDの歴史 ②AEDの使用法 ③一次救急の現状・問題点 ④蘇生ガイドラインの変更点(JRC2010の紹介)についての講義から始まりました。

特に重要だったのは蘇生ガイドラインの変更内容の説明でした。患者に反応が無い場合は呼吸がなければ直ちに胸骨圧迫を開始すること。強く(成人は少なくとも5センチ、小児は胸の厚さの約3分の1)速く(少なくとも100回/分)絶え間なく(中断を最少にする)30:2で胸骨圧迫に人工呼吸を加える(人工呼吸ができない状況では胸骨圧迫のみを行う)と胸骨圧迫の重要性について説明がありました。

その後はAEDの実際を2人組で演習をしました。参加した事務職員は「AEDを触ることが初めてだったのでわかりにくかったが実践したことで次回からはできそう。流れがよくわかって良かった」との声が聞かれました。またアンケート結果でも同じような意見がありました。アンケートの回収率は77%で、参加動機は「テーマに興味があって参加した」が72%、習得率では「大体実践できる」が92.5%でした。

ほとんどの部署からの参加があり、医療職以外のAEDを触った事がない職員も実習し流れが理解できたことで、実際の場面に遭遇した時慌てることなく実践できれば救命に繋がると期待ができる研修でした。



## しきさんさん 四季燦餐

## ● 新米の巻 ●

秋の気配が少しずつ感じられる季節になってきました。日本の秋の風物詩はなんといっても稲刈り風景。東温市でも多くの田んぼが黄金色にそまり、私たちの食卓に美味しい新米を届けてくれます。

五穀豊穡——。古代から多くの人々の願いが込められてきた言葉です。その五穀とは、日本神話によれば、粟(あわ)、稗(ひえ)、麦、豆の陸田種子(はたつもの)、稲の水田種子(たなつもの)の五穀で、保食神の神体から発生し、神とのかかわりあう存在とされています。その中でも、とくに稲の水田種子は大切にされました。

稲作のお祭りは正月に始まり、稲刈りの後の豊作を感謝するまで続きます。正月に訪れる年神さまは先祖と稲霊(いなだま)の重なり合ったものとされ、正月飾りも稲わらが使われるなど稲作に関係のあるものが多くあります。その後、苗代に種をまいた日の「水口祭り」、水田の温度が高まる「虫送り」、秋の稲刈りの「刈り上げ祭り」まで生活に根ざした形で続けられています。特に盛大なのが「田の神あげ」祭りで、豊作を感謝し、賑やかな振る舞いをします。秋に行われる地方祭もこの「田の神あげ」祭りの一つです。二千年にわたって稲を栽培している民族にとって稲は、生活とは切り離せないものです。

日本には米を楽しむ多くの料理が伝わっています。実りの秋にぴったりなきのこやぎんなん、栗などを使った炊き込みご飯やちらし寿司もいいですね。炭火で香ばしく焼いたきりたんぼを使った鍋はどうでしょう。五平餅も新米の季節の楽しみ料理です。



### 写真の献立

- 粟入りちらし寿司
- 柿の白和え
- 焼きもの
- 梨
- 炊き合わせ

# 看護学校の頁 ～学び舎から～

## オープンスクール

第1回(7月23日)第2回(8月29日)の2日間オープンスクールを開催しました。第1回には118名もの参加があり、例年にない人数の多さに戸惑いもありましたが、本校や看護、看護師に興味・関心が高いことを教員、学生一同とても嬉しく思いました。当日は、学校の概要説明、公開講座(沐浴)や看護体験(洗髪・呼吸音心音聴取・沐浴)、在校生との歓談など、参加者が、在校生や教員と関わりながら看護を体験し、本校の良さも感じてもらえる内容にしました。

参加者からは「ベッドの上でも洗髪ができることに驚いた」「自分の心音や肺音が聴けて楽しかった」「授業(沐浴)で教わったことを実践できてよかった」「普段体験できないことが体験でき、看護に対しての興味がより深まった」「看護師のすばらしさがわかり、視野も広がった」などの感想があり、限られた体験ではありましたが、看護学校の雰囲気と看護を身近に感じてもらえたのではないかと思います。

第2回は、すでに2学期が始まっている高校も多く22名の参加でしたが、少人数の温かい雰囲気の中での開催でした。内容は、1・3年生による体験発表や学校生活の紹介、そして白衣を着用し愛媛病院を見学するという今年初めて企画したものでした。

体験発表や学校生活の紹介については「先輩方の話を聞き、学校生活が充実していることがわかった」という感想をいただきました。

また、病院見学は、看護師はじめスタッフにもご協力頂きました。白衣に着替えて嬉しそうにはにかむ参加者に新鮮さを感じながら病棟を案内し、「病棟の様子やナースステーションも見ることができよかった」「業務を少し見学し雰囲気を感ずることができた」「少しなりたいたい自分に近づけた感じがして夢を叶えたい気持ちが高まった」という参加者の声と笑顔に、私たちも笑顔で一日を終えました。



「業務を少し見学し雰囲気を感ずることができた」「少しなりたいたい自分に近づけた感じがして夢を叶えたい気持ちが高まった」という参加者の声と笑顔に、私たちも笑顔で一日を終えました。

## 夏季研修

7月の課外研修では、クラスの皆とたくさんのよい思い出を作ることができました。ミュージカル「誓いのコイン」の観劇では、人を思うことの大切さを学び、劇の後半では何度も涙があふれるほど感動しました。

この物語は、日露戦争中捕虜収容所が造られた松山に、負傷したロシア兵が迎えられる場面から始まります。負傷したロシア兵を一生懸命支え、励ます松山の看護師たちの博愛精神、敵国の兵士に対する松山のおもてなしの心に、改めて看護師という職業の素晴らしさ、昔から受け継がれてきた松山の優しさを実感しました。また、ロシア兵士を手当てする篤志看護師の娘に対する心配と、敵国ロシアに対する気持ちの間で揺れ動く母親の強い意志には、どの時代も変わらない母親の優しさや子どもを思う気持ちの強さを感じました。

愛し合っている心も心の国境を越えることは簡単にできることではありません。少しずつ心を交わすことでどんなに遠く離れても二人の気持ちが一つだったこと、険しい方の道を選ぶことで多くを学ぶことができること、これらのことがいかに大切でまたどれほどの勇気があるのか、改めて考えることができました。

午後からのバーベキューでは、暑い中グループの皆と一緒に楽しい時間を過ごすことができました。肉や野菜を焼いている時は、全員で協力することの大切さがわかりました。

今回、クラス委員としてクラス全体をまとめることの難しさを改めて実感することができました。しかし、副クラス委員をはじめ、周りの人たちが協力してくれたおかげで、楽しい研修になったと思います。研修が終わった後、何人かの人から「お疲れ様、ありがとう」と言ってくれた時は、クラス委員をしていて本当によかったなと感じることができました。一人でも何かをするのではなく皆で協力し、得たものを皆で分かち合うことの素晴らしさやありがたさを、今回の研修で学ぶことができました。今後の活動で、これらの体験を生かし、楽しい学校生活にしたいと思います。

1年生 二宮 樹

アツツ!

食べ頃やい〜



拾ってきた新をせつせとストープに放り込み乍ら「お前だけは男の浪漫が解るよなあ」と愛犬に語りかけつつ飲む珈琲は何とも云えず美味い、少しほろ苦いのは:

樹 懶 菴



「朝めし」は原稿用紙にして十枚ぐらいたろうか、その短い文章の中に、美しい情景描写と労働者一家の活写が凝縮されている。原作の素晴らしさは勿論だが、訳者の大久保康雄さんの日本語がまた美しい。以来、「いつかあれをやってみたい」と心に秘め続けて、その夢が叶ったのは四十代も半ばを過ぎてからだ。 (我々らしいこい性格ではある)

ネットで見つけたキャンプ用の新ストープは値段も大きさも手頃。後先考えず飛びついて購入した。今日か明日かと待つこと一週間。漸く届いた荷物を解くのももどかしく、座敷で組み立てて独り悦に入っているのを、妻も子供たちも呆れ顔で見ているが、やがて次男が「とうさん気が触れた」とひとこと。「何とでも云え。長年の夢、男の浪漫じゃ」と独り言ちる私。

以来暇を見つけては新ストープを担いでキャンプに出掛けている。妻は「地べたで寝るなんてとんでもない」というお嬢様育ちへどの辺が?」だし、子供たちも親と遊んでくれる年頃ではなくなったので、専ら愛犬と二人連れである。

ちよんと言いつつ放し

愛媛病院ニュース編集委員の持ち回りでお届けします。

# 外来診療担当医表

内科外来直通電話 089-990-1834 FAX 089-990-1858

外科外来直通電話 089-990-1835 FAX 089-990-1859

診療科	月	火	水	木	金	
内科	循環器	岩田(午前) 船田	橋田	橋田(予約のみ) 藤田	岩田	船田
	消化器	古田	山内(一)	久保	山内(一) 糖尿病専門	久保
	呼吸器	阿部	市木 渡邊	佐藤	阿部 植田	市木
	神経	橋本(午前)	山下(午前)		山下(午前)	戸井
専門外来 (完全予約制)	心臓リハビリ 橋田	心臓リハビリ 橋田	心リハ外来 橋田(午前) 心臓リハビリ 橋田(午後)	心臓リハビリ 橋田(午前)	心臓リハビリ 橋田	
		スキンケア外来 第1・3(午前)	ペインクリニック 山内(康)	ペースメーカー外来 第2・4(午後)	糖尿病外来 古川(第2・4)	
	SAS外来 渡邊 (再診のみ)	アスベスト外来 (13時~16時)	SAS外来 植田(午後) 神経難病 橋本	アスベスト外来 (13時~16時)	じん肺外来 西村(第1・3)午前	
外科		鈴木	石丸	渡部 (隔週) 山下・澤田・末久 (第1・15時~) 泉谷 (隔週)	湯汲	
	整形外科 午前のみ診療	横手	曾我部	横手	宮本(第2・4) 曾我部(第1・3・5)	
		宮本		曾我部		

※外来受付は午前8時30分から午前11時までです。ただし、土・日・祝祭日・年末年始(12月29日~1月3日)は休診です。2011年10月1日現在  
 ※容体急変の心臓疾患・急性呼吸不全の患者様は24時間受け入れいたします。  
 ※SAS(睡眠時無呼吸症候群)  
 ※禁煙外来は、4月1日より休診いたします。

## 独立行政法人国立病院機構 愛媛病院

〒791-0281 愛媛県東温市横河原366 TEL 089-964-2411 FAX 089-964-0251  
 ホームページアドレス <http://www.ehime-nh.go.jp>

### 当院の位置と交通



#### 高速道路川内ICまでの所要時間

- 三島川之江IC(70km) 50分
  - 高松西IC(130.9km) 1時間30分
  - 徳島IC(170.9km) 1時間50分
  - 高知IC(130.1km) 1時間30分
- (川内ICから当院まで車で5分)

#### 交通機関

- 電車 伊予鉄高浜横河原線横河原駅下車徒歩7分  
または、愛大医学部南口駅下車徒歩3分
- バス 伊予鉄松山市駅川内方面行横河原下車徒歩10分
- 自家用車 松山市から30分 伊予市から40分 西条市から60分  
無料駐車場完備